

# 大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センターセンター長  
御名前 小池 俊雄 様

## 1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

わが国の convening power を発揮できる分野を中心に〇〇ウィーク等を開催して、各展示主体が重視するテーマ、展示内容と有機的に連携させて、参加者がサイバー空間と現実空間の高度な融合 (society 5.0) を体感しつつ、「いのち輝く未来社会」をともにデザインする場にして、6か月間の開催期間全体を体験型国際会議期間とする。

### ● 環境

- ・ 1972年の国連人間環境会議以降、40年の歳月をかけて議論を熟成して、2012年のリオサミットにてSDGsの策定を決意し、2015年に合意された。これは1970年万博以降、我が国が歩んできた道のり（環境汚染の深刻化と克服、気候の変化の認識と対応、生物多様性の喪失と保全、地球観測の確立と利用）と一致する。
- ・ SDGXXウィーク（SDGs策定10年）、気候変動ウィーク（パリ協定10年）、生物多様性ウィーク、地球観測ウィーク（GEO設立20年）等をシリーズで開催する。

### ● 防災・減災

- ・ 1970年万博以降、我が国は幸いに比較的災害の少ない期間を経験し、飛躍的な経済成長を遂げた。その後、阪神・淡路大震災、東日本大震災、頻発する大規模水災害を受け、安定経済成長化においてレジリエントな社会づくり取り組んでいる。その間、横浜、神戸、仙台にて3回の国連防災会議を開催し、兵庫枠組み、仙台枠組み等の国際目標づくりに貢献した。
- ・ 開催期間中、南海トラフ地震・津波想定、伊勢湾台風クラスの災害が発生しても、国内外の来訪者の命が守られ、復旧、事業継続できるシステム（構造物、予警報、避難、救助、訓練を含む）を実装し、そのシステムそのものを展示とする。来訪者が、守られていると実感できる取り組みが必要。
- ・ 防災・減災ウィーク、もしくは防災・減災月間（9月）を設定し、防災推進国民大会の国際拡張版を開催し、事前投資（大阪防潮堤）、Build Back Better（阪神・淡路大震災復興）などの近隣事例も組み合わせて国際的な普及・啓発を行う。

### ● 健康

- ・ 少子高齢化のフロンティアに立つ我が国において、医療や介護が必要になっても、高齢者が輝きをもって活動を継続できる社会づくりが必要。

**2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。**

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- Society 5.0 の世界
  - ・ データ統合・解析システム(DIAS)などデータサイエンスの貢献
  - ・ ポスト京などスーパーコンピューティングの貢献
  - ・ SINET などネットワーキングの貢献
  - ・ データ駆動型政策（スマート／コンパクトシティ、MaaS、気候変動適応等）の展開
- 科学技術と社会の共創
  - ・ フューチャーアースが進める分野間連携、社会と科学の連携による co-design、co-production
  - ・ 先端科学技術と人々の暮らしをつなぐファシリテータとその支援情報システム
  - ・ 仮想体験に基づく環境、防災・減災行動の支援
- 仙台枠組み、SDGs、パリ協定
  - ・ それぞれのターゲット、指標、目標の達成状況
  - ・ 各国、各地域、各セクターの取り組み

**3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。**

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 防災・減災対策
  - ・ 環境、健康に重点を置く日常的対応から、災害に対する非日常対応へとシームレスに移行できるシステム構築。
  - ・ ハードは特に液状化、津波、高潮、強風、落雷対策の強化
  - ・ 予警報システム、避難誘導計画立案、訓練（特に国外からの展示、来訪者）の実施
  - ・ 標準的な応急対応手順書（SOP：Standard Operation Procedure）の策定および訓練の実施
- 環境
  - ・ 海陸風の特性を踏まえ、風の道に考慮した建物設計
  - ・ 高度な資源循環型（ゴミ、水、エネルギー）システムの導入
- 健康
  - ・ 介護支援と施設が一体となったバリアフリー環境の実現

**4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。**

- ボランティア活動の質的、量的活性化。

以上